

## 2024（令和6）年度 京都大学 入試問題 文系 第2問 解答例

\*1行は約25文字（+句読点などの記号）。20字程度とすべきだと主張する人もいる。

### 問一

芸術家が、個人的観念を離れた絶対無限の存在という、芸術の究極の境地である永遠性を尊崇し、刹那的な芸術的価値からの脱却を願うのは、極めて妥当であるということ。

### 問二

大自然でさえ悠久ではないのに、製作時の作者の内面の要求を本来とする芸術の永遠性など、安易で、卑しく虚しい弱さ、愚かなでたらめであり、無意味さを感じるということ。

### 問三

芸術作品の持つ永遠性は、作品の内的な永遠不滅の性格を、無限持続の感覚として鑑賞時に享受させる力であり、作品が時間的に永続する事実の予定認識ではないということ。

### 問四

人間精神の根底に広く通じる高度で強力な、本当に絶対的な普遍性を持つ芸術作品は、いつか人心内部に浸透するが、通俗的作品とは峻別され、不可解もしくはあまりの明解さのため、当初は必ず執拗な抵抗を受けるということ。

### 問五

現れては消滅する、極めて多数の芸術作品の美は、普遍性がなく、偏って感傷的な、特殊な美であるが、それこそ人間精神と技術芸能との人為を超えた結合により、普遍的な美の永遠性を表す作品を生じる豊かな基盤となるということ。